

オコト交配

キユーピット
KYUPITTO



糖度の高い プリンスタイプの 大衆メロン

- 2 番果、3 番果でも高糖度。
- 発酵がしにくい赤肉メロン。
- 糖度 17～20 度と甘さが安定。
- 果重 0.7～1kg の正球形。
- 肉質が安定し、店持ち良好。

キューピットメロン

KYUPITTO

栽培の要点

家庭菜園にも最適、簡単においしいメロンができます。

特 性

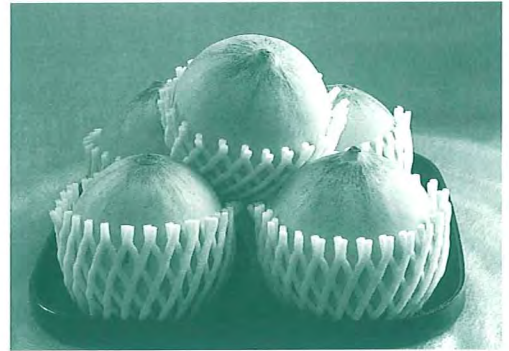
- 草勢は中程度で、葉は切れ込みが浅く濃緑。ツルは細く、雌花の着生及び着果性は良好。
- 果実は0.7~1kgの球形。外皮は淡い灰緑色で収穫時には黄色の発色があります。
- 果肉はサーモンピンクで、3.5~4cmと厚い。
- 糖度は17~20度と高く、甘味が強い。高温期収穫でも16度以上になりカロチン臭が少ない。
- 高温期の発酵は極めて少なく、肉質は安定し店持ちが良い。

定 植

- 地這栽培では、畦巾1.8~2m、ツル間30cmにできるように、畦の中央又は肩側に一条植をする。
- 肥料は、全面基肥を基本とし、成分量でN6~10、P15~25、K10~13kgとする。
- 苗令は、春作では本葉3~4枚展開、抑制は1~2枚展開時を基本として定植する。
- 地温は、春作において16~18℃を確保し、夜間の気温は10~12℃以上保つようにする。

整 枝

- 地這栽培では、親ツルの本葉4~5枚残して摘芯し、その後発生する子ツルを、太さ・長さを揃えて2~3本残す。
- 着果は、子ツル8~12節(春作)、又は14~16節(抑制)の孫ツルの第1節の雌花で行う。
- 着果枝までの側枝は早目に除去し、着果枝より上の側枝も早目に除去する。
- 子ツルの摘芯は、着果枝より5~7枚残して行う。
- 1ツル2果収穫を目標とするが、着果枝は2~3本程度残し摘果時に除去する。
- ツル間隔やツル先の整頓を適宜行い、光条件を均一にする。



着果・摘果・シート敷

- 人工授粉はもちろんのこと、ホルモン処理着果やミツバチ利用で着果させても良い。
- 着果後6~7日で形と大きさを揃うように、1ツル2果を残して他を摘果する。
- 摘果後果実が5~10cmに肥大した頃にメロンシートを敷くか又は玉つりをして果実をいためないようにする。

果実の肥大と温度管理

- 着果後30日頃まで肥大するので、晴天日の昼間は35~37℃を目安に管理する。灌水も適宜行う。
- よもぎ色から淡灰緑色になれば最高温度を30~33℃とし、夜間の換気を行い昼夜の温度格差を充分つけて成熟させる。

収 穫

- 開花後38~43日前後を目安とする。
- 果皮に黄色の発色が現れれば収穫が近い。
- ためし切りをして、収穫日を確認する。

(注 意 点)

- N過多になると、果梗部に緑条が残る場合がある。また、ひびネットが入ることもあるので、N量に注意する。
- 接木栽培の場合はナント交配親交南瓜を使用すると良い。

NANTO SEED

| 栽培型 | 月 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|--------|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| ハウス | | ○ | ● | ■ | | | | | | | | |
| トンネル | | | ○ | ● | ■ | | | | | | | |
| 露地キャップ | | | | ○ | ● | ■ | | | | | | |
| ハウス抑制 | | | | | | ○ | ● | ■ | | | | |